

令和元年度 第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議 実施報告書

(相双) 教育事務所

| | | | |
|------|--|-------------------|------------------|
| 1 | 実施期日 | 令和元年6月28日(金) | 時間：13時00分～16時00分 |
| 2 | 会場 | 南相馬市立石神第二小学校 家庭科室 | |
| 3 | 出席者数 | 13名 | |
| (内訳) | 学識経験者(座長) | 学校・PTA関係(2名：3名欠席) | |
| | 親子の学び応援講座実施PTA(0名) | 放課後子ども教室(0名：1名欠席) | |
| | 家庭教育応援企業(1名) | 特定非営利法人(2名：1名欠席) | |
| | 行政関係(4名：9名欠席) | 事務局(3名) | |
| 4 | 会議概要 | | |
| 1 | 開会 | | |
| (1) | 開会のあいさつ(主任社会教育主事 佐藤 伸洋) | | |
| (2) | 主催者あいさつ(次長[総務担当]兼総務社会教育課長 島 裕之) | | |
| (3) | 自己紹介 | | |
| 2 | 事業説明 ※資料参照 | | |
| (1) | 地域でつながる家庭教育応援事業の概要 | | |
| (2) | 令和元年度相双ブロック会議の基本方針 | | |
| (3) | 「親子の学び応援講座」実施PTAの取組紹介 | | |
| ○ | 南相馬市立石神第二小学校の取組 | | |
| | ・親子の学び応援講座「食育講演会」及び食育相談 | | |
| | 6月28日(金)14:00～16:00 | | |
| ○ | 相馬市立飯豊小学校の取組 | | |
| | ・親子の学び応援講座「食育講演会」7月 2日(火)14:15～15:15 | | |
| (4) | 家庭教育応援企業及び主な取組の紹介 | | |
| 3 | 南相馬市立石神第二小学校「食育講演会」の聴講 ※親子の学び応援講座 | | |
| | 講演「たのしい食事で作られる すこやかな心と体」 | | |
| | 講師 料理愛好家(わか) 江川 和花 氏 | | |
| | ■資格：食育インストラクター、国際薬膳食育師、食品衛生責任者 | | |
| 4 | 協議 | | |
| (1) | 相双地域の子どもを取り巻く状況及び家庭教育の推進 | | |
| ○ | 事務局説明 ※資料参照 | | |
| | ・「社会教育施策概要」「地域でつながる家庭教育応援事業」 | | |
| | 「福島県地域家庭教育推進協議会」「地域家庭教育推進相双ブロック会議」 | | |
| | 「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業」「家庭教育支援者研修(全県・地区別)」 | | |
| | 「ふくしまの家庭学習スタンダード」「少年団体の組織の状況」 | | |
| | 「少年を対象とした事業」「家庭教育に関する事業」 | | |
| | 「PTA組織の状況及びPTAを対象とした事業の実施状況」 | | |
| | 「家庭教育支援チーム」の手引書 | | |
| (2) | 相双ブロック会議としての取組について | | |
| ○ | 家庭教育に関する関係機関・団体、各市町村等の取組について | | |
| | ・福島県PTA研究大会(南相馬市大会)の開催に向けて準備進行中である。PTA間・学校間のつながりをより密なものとしていきたい。学校においては、お泊まり活動や食育に関する活動、メディアとのかかわりを学ぶ活動等を行っている。相双域内での | | |



取組を他地域へ情報発信していく必要があるのではないか。(PTA)

- ・メディアコントロールは早い時期に取り組みたい。メディアを活用する力を育成する必要がある。(中学校)
- ・フリースクールや若者スクールサポート、貧困家庭への支援を行っている。支援の中から見えてくる子どもの姿としては、「キレイやすさ」「落ち着きのなさ」がある。(NPO法人)
- ・地域の状況としては、南相馬市北泉海水浴場の海開きが行われる。スタッフとして準備を進めている。他の活動として、国内外への支援のメッセージ活動、今井正人選手への応援メッセージ活動、テレビCMの出演活動等がある。(NPO法人)
- ・家庭を含めた「家庭教育支援チーム」の取組を進めている。関係機関との連携の重要性を痛感している。「子育て世代包括支援センター」「切れ目のない支援」の取組にも力を入れている。家庭生活・家庭教育をどう支援するのが課題である。(県行政)
- ・地域と子ども、学校とのつながりを大切にして様々な取組を行っている。子どもたちを集めての行事の開催、親子活動、講演会、郷土食体験、世代間交流運動会、海外への情報発信等である。(町行政)
- ・町の状況について保護者の理解を求めなくてはならない場面がある。子どもたちの協力・交流のための活動としてフレンドー教室を開催している。地域学校協働活動事業を契機として、地域づくり・学校づくりを行っている。地域の人材・素材等を有効に活用していきたい。(町行政)

(3) 座長よりまとめ

- スマホ所持、セキュリティ法制化等、様々な動きがある。家庭教育の重要性がより一層高まっている。
- 東日本大震災をはじめ、日常の生活の中で「記憶を消す」「記憶を消さない」ことの大切さが叫ばれることもある。子どもたちが成長するための場、地域の存続は重要である。地域創生あるいは存続の視点から、例えば、地域の伝統芸能と子育てをつなげて「消さない化」を進めていくこと等の取組を進めていくことも必要だろう。
- 学校や家庭、地域の問題や課題には、自力で解決できるものもあるが、他力の支えを要するものもある。解決やよりよい取組のために、相双地域全体を見通して「幼保小中高」のつながりを工夫したり意図的に行ったり、学校教育・家庭教育・社会教育の重なりを意識することも重要であろう。
- 相双ブロック会議で取り上げられた内容等について積極的に情報発信していきたい。

4 閉会

5 成果・課題

- 「地域でつながる家庭教育応援事業」の概要、特に「家庭教育応援企業の取組」について各委員に説明し、共通理解を図ることができた。また、相双地域の子どもを取り巻く状況等について、社会教育統計調査をもとに説明し、構成員に理解いただくことができた。
- 家庭教育の推進について、各構成員から日頃より取り組んでいることや課題について意見をいただいた。それぞれの立場からの内容なので、広く情報を収集することができた。
- 相双ブロック会議「家庭教育に関する3つの提言」の「食育」に関連して、学校現場で行われている講演会に参加・聴講いただいた。その結果、協議の場面でも具体的な話題が取り上げられた。
- 相双地域の課題をもとにした推進内容の検討や親子の学び応援講座実施PTAの取組をもとにした事業の検討など、協議内容の焦点化を図り、より活発な協議となるようその計画・運営を進めていく必要がある。